

## 令和2年度「山形学」講座第1回が終了しました！

今年度の大テーマは「人々は疫病をどう乗り越えてきたか」。第1回目は「疫病と向き合う一昔と今」と題して、国立保健医療科学院 生涯健康研究部 主任研究官の逢見憲一氏と山形大学医学部附属病院 検査部 部長・病院教授、感染制御部 部長、山形大学理事特別補佐（危機管理担当）の森兼啓太氏をお迎えし、「山形学」企画委員の下平裕之氏をコーディネーターに講座を開催しました。

今回は、「山形学」初のオンライン併用講座となりました！講師の逢見氏にはオンラインでご講演いただき、また受講生には会場の他、オンラインでも参加いただきました。高校生や20代の参加がこれまでにないほどありました。

逢見氏は、世界的流行パンデミックの歴史として、100年前のスペイン風邪を取り上げ、当時の衛生行政機関、内務省衛生局とその在野団体、大日本私立衛生会がどのように関係していったのか、わが国においてパンデミックはどうだったのか等“昔”のことについて、豊富なスライド資料を用いて話されました。疫病に対する行政と医師等の見解の相違と対立は、現在にも通じるものがあると感じました。

一方、森兼氏は、感染症の歴史から新型コロナウイルスの症状、検査機器の説明、治療薬やワクチン接種などの“現在”について話され、新型コロナをはじめ、感染症は正しく理解することが重要で、感染症を「正しく怖がろう」と受講生に呼び掛けられました。TV などでは取り上げられない話を信頼できる専門家から直接聞くことができ、大変勉強になったとの声が多く寄せられ、森兼氏の前向きな励ましに勇気づけられた受講生が多かったようです。

また、今回は両講師の資料が充実していて理解しやすいと大好評で、疫病の昔と今を学ぶ大変有意義な講座となりました。

### 第1回「疫病と向き合う一昔と今」

コーディネーター：下平裕之氏（山形大学人文社会科学部教授）

講師：逢見憲一氏（国立保健医療科学院 生涯健康研究部 主任研究官）

森兼啓太氏（山形大学医学部附属病院 検査部 部長・病院教授、感染制御部 部長、山形大学理事特別補佐（危機管理担当））

場所：遊学館2階 ホール

日時：令和3年1月31日（日）13:30～15:30

参加者：会場48名、オンライン31名





☆令和2年度「山形学」講座は、講座終了後に内容をまとめ、講座録“遊学館ブックス”として発刊いたします。これまでの講座も冊子にしており、販売しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。